

氏 名：石田 千絵  
学位の種類：博士（看護学）  
学位記番号：甲第 131 号  
学位授与年月日：2015 年 3 月 10 日  
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 麻原きよみ（聖路加国際大学教授）  
副査 山田 雅子（聖路加国際大学教授）  
副査 伊藤 和弘（聖路加国際大学教授）  
副査 小松 康宏（聖路加国際病院副院長・腎臓内科）

論文題目：東日本大震災で大津波被害を受けた透析患者の経験

#### 博士論文審査結果

本研究は、東日本大震災で大津波被害を受けた透析患者の経験とその意味を記述することを目的とし、ハイデガーを理論的基盤とする現象学的アプローチを用いて、6 名を研究参加者としてデータ収集・分析・記述を行った。結果として、被災した透析患者は、一瞬にして多くのものを失い、またさまざまな『つながり』を失うという大津波被災体験に加え、自身が弱き存在であることが露呈し、透析のために大切な「つながり」を自ら手放す体験をしていたこと、また、可能な限りもとの状態に戻るために、「つながり」をひとつひとつ紡ぎ、あるいは新たな「つながり」の可能性をめがけて生活していたことを記述した。

審査では主に考察について議論され、修正が求められた。

- ・記載されている用語の意味が示さないまま使われ、しかも文献から引用された用語（深い孤独、曖昧な喪失など）が多いため、考察がわかりにくい。「つながり」「存在意義」「自己存在」などの概念整理が必要であり、用いる場合はその意味を説明する必要がある。特に、結果の考察の視点としている「つながり」については、その意味を吟味して定義すること。
- ・研究参加者の条件として、家族を震災で亡くしていないこととしたため、本研究参加者は、自身の存在意義を日常生活で気づきやすい立場の人たちであったと考えられる。この点について考察に加えること。
- ・透析患者に特有な体験なのか、医療ニーズの高い他の患者にも共通する体験なのかを整理して考察を深めること。
- ・透析患者にとってのつながりの意義には、自身の存在意義だけでなく、透析患者という境遇を共有するピアサポートが得られていたと考えられる。結果に基づいて、具体的な看護実践のあり方を示すこと。

以上の指摘に関しては、審査後に修正・加筆が行なわれ、審査委員から確認が得られた。

審査の過程では、本研究は大津波被害を受けた透析患者の体験が生き生きと記述されていると評価された。未曾有の災害であった東日本大震災において、透析患者の体験に焦点を当てた研究は他に見られず、本研究結果は貴重な資料となるとともに、災害における透析患者の支援、とりわけ看護実践のあり方に具体的かつ多大な示唆を与えることが期待される。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。